第2章 八戸市の都市特性



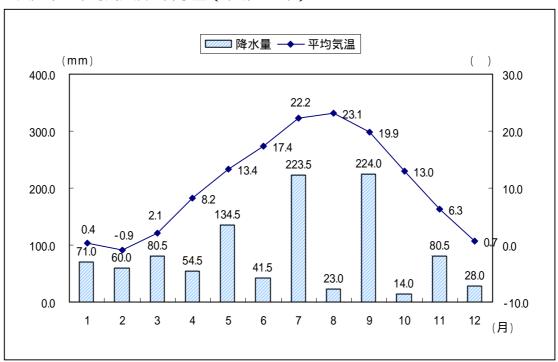
(1)位置・面積

- ・八戸市は青森県の南東部に位置し、工業と水産業を中心に発展してきた都市です。 市域面積は約214km²で、東西に約24.5km、南北に約22.5kmの広がりをもっ ています。
- ・八戸地方には、是川石器時代遺跡や長七谷地貝塚に代表される縄文時代の遺跡が数 多く残されており、古くから人々の生活が営まれていたことが知られています。南 北朝時代には甲斐国の南部師行が根城に城を構えこの地域を治めましたが、盛岡の 南部利直の命を受け遠野へ移された後、八戸は盛岡南部藩の直轄地となりました。 寛文4年(1664年)藩主南部重直の死去により、遺領10万石のうち8万石を重直 の弟の重信に与えて盛岡藩を相続させ、残り2万石は次弟の直房に新たに与える裁 定を下し、ここに八戸藩2万石が誕生し八戸発展の礎となりました。
- ・現在の八戸市は昭和4年に八戸町、小中野町、湊町、鮫村の合併により市制施行したのに始まり、昭和15年に館村の一部編入、昭和17年に下長苗代村を昭和29年に是川村、昭和30年には上長苗代村、市川村、館村、豊崎村を合併し、昭和33年に五戸町と境界変更、大館村を合併したことによりほぼ現在の市域となっています。

(2)地形・地勢等

- ・本市の地形は、西の奥羽山脈や岩手県境の山地から北、東方向に緩やかな丘陵地が つらなり、太平洋に向けてほぼ西方から流れる河川によって形成された平野が広が っています。
- ・市内の標高は、新井田川と土橋川上流部の市境界付近が約200mと最も高く、さらに西部から南部の丘陵地にかけて100m以上のところもみられます。地形の傾斜は、部分的に急傾斜地は見られますが、8°未満の地域が大部分を占めており全体的に平坦地または緩傾斜地であるといえます。
- ・その丘陵地の間を一級河川馬淵川(支流浅水川) 二級河川新井田川(支流松館川、 頃巻川) 五戸川、奥入瀬川等の河川が太平洋に向けて緩やかに流れています。
- ・気候は太平洋気候に属しますが、やませ(冷たい北東風)の影響を受け夏は冷涼で、 冬は晴天が多く乾燥します。また北東北に位置していますが、降雪量が非常に少な いのが特徴です。

八戸市の平均気温及び降水量(平成 12年)



資料:八戸市市勢要覧

(3)植物

- ・八戸市の森林は、コナラ、アカマツ等の人為の影響のもとに二次的に成立した森林(二次林)が広く分布し、本来の自然林は、河畔や急傾斜地等に断片的に残っているに過ぎません。
- ・「第3回自然環境保全基礎調査(植生調査)昭和58年度調査」では、森林は自然林としてアカマツ群落、ヤナギ低木群落等がみられますが、これらはいずれも分布面積は小さく市域の各所に点在する程度です。植林地は南部と北西部の丘陵地にクロマツ植林、スギ・ヒノキ・サワラ植林、カラマツ植林などが散在するほか、種差海岸の一部にクロマツ植林がみられます。また、二次林はカスミザクラ・コナラ群落やアカマツ群落が南部、西部に散在し、タラノキ・クマイチゴ群落が南部にみられます。草地はススキが南部に散在、北東部の河畔地を中心にかなりまとまって分布しているほか、種差海岸には海浜植物のハマギク群落がみられます。
- ・「第3回自然環境保全基礎調査 青森県自然環境情報図(平成元年発行)」では、国内若干地域に分布する極めて稀な植物群落として「小船渡平の海低木群落」等が指定されています。
- ・市民の花として「菊」、市民の木「イチイ(オンコ)」を制定しています。

八戸市の植生

資料:八戸市緑のマスタープラン作成業務報告書(平成5年)

(4)動物

- ・種差海岸の北端には、ウミネコの繁殖地として天然記念物に指定されている蕪島が あります。また、このウミネコは、本市の市民の鳥に指定されています。
- ・市域南部の山林には、カモシカ等の哺乳類が生息しています。
- ・馬淵川と新井田川を比較すると、新井田川の方が野鳥が多く見られ、新井田川を代表する鳥としては、カワセミやカルガモがあげられます。冬期には、オオハクチョウやスズガモ、シノリガモ、クロガモ等の渡り鳥が、新井田川や海岸部で多く見られます。

市内で見ることができる野鳥

	年間	春と夏	秋と冬	春と秋だけ
森林·林	アカハラ ヤマドリイカル アカゲラ コゲラ ゴジュウカラ シジュウカラ ヒガラ コガラ ヤマガラ コガラ ヤマガラ ロッ ウグイス メジロ フクロウ オオタカ ハイタカ	コムクドリ ピンズイ クロツグミ トラッグミ オオルリ ホトトギス ッツドリ コノハズク センダイムシクイ メボソムシクイ アオバズク ルリピタキ ヨタカ	アオゲラ マヒワ	イスカ コマドリ ジョウビタキ キビタキ
草地·疎林	オナガ ヒバリ モズ ホオジロ キジ	ホオアカ カッコウ オオジシギ	カシラダカ ベニマシコ ノスリ チョウゲンボウ	ノビタキ アトリ オオジュリン コジュリン ショウドウツバメ アトリ
人家付近	スズメ カワラヒワ ムクドリ キジバト ヒヨドリ ハクセキレイ ハシブトガラス ハシボソガラス トビ	チゴハヤブサ	ツグミ キレンジャク ヒレンジャク	
水辺·川辺	カワセミ ミソサザイ ヤマセミ キセキレイ セグロセキレイ カルガモ オシドリ カワガラス	イワツバメ ツバメ オオヨシキリ コヨシキリ イソシギ シロチドリ ゴイサギ ササゴイ	オオハクチョウ スズガモ キンクロハジロ ウミアイサ ミコアイサ ホオジロガモ ホシハジロ	アオアシシギ セッカ
湖沼	カワセミ アオサギ カイツブリ	バン オオバン	マガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ	アマサギ コサギ
海岸	ウミネコ オオセグロカモメ ウミウ イソヒヨドリ	アマツバメ	クロガモ シノリガモ ハジロカイツブリ ミミカイツブリ カンムリカイツブリ ウミアイサ カモメ ユリカモメ ミツユビカモメ セグロカモメ シロカモメ ワシカモメ ヒメウ	カワウ トウネン キアシシギ コチドリ ホウロクシギ キョウジョシギ メダイチドリ ハヤブサ

資料:自然ウオッチング(平成4年)



(1)人口・世帯数

市全体の人口・世帯数

・住民基本台帳によると、八戸市の人口は平成 14 年 9 月 30 日現在 245,002 人であり、近年はほぼ横ばいの状況でありますが、世帯数は 94,486 世帯で増加傾向が続いています。国勢調査によると、市街化区域内人口は昭和 60 年以降減少が続いています。

人口の推移

年次	人口 (人)	対前5年 増加率 (%)	世帯数 (世帯)	対前5年 増加率 (%)
昭和 25 年	100,887		19,654	
昭和 30 年	134,258	33.1	25,371	29.1
昭和 35 年	174,682	30.1	35,541	40.1
昭和 40 年	197,263	12.9	45,297	27.4
昭和 45 年	214,452	8.7	54,765	20.9
昭和 50 年	226,331	5.5	65,188	19.0
昭和 55 年	239,201	5.7	72,439	11.1
昭和 60 年	242,919	1.6	77,683	7.2
平成2年	244,181	0.5	82,504	6.2
平成7年	245,366	0.5	87,770	6.4
平成 12 年	244,770	0.3	92,323	5.2

資料:昭和25年 配給台帳(10月1日)

昭和 30 年~40 年 住民登録(10 月 1 日) 昭和 45 年~ 住民基本台帳(9 月 30 日)

都市計画区域内の人口

単位:人

年次	市街化区域	市街化調整区域	都市計画区域
昭和 60 年	208,639	32,791	241,430
平成2年	207,021	34,036	241,057
平成7年	200,193	42,461	242,654
平成 12 年	199,588	42,332	241,920

資料:国勢調査

年齢・性別人口構成

- ・国勢調査によると、平成 12 年の年齢・性別人口は下表のとおりであり、14 歳以下の年少人口は39,440人で全体の16.3%、65歳以上の老年人口は38,167人で15.8%となっています。
- ・平成2年から平成12年までの年齢別の人口割合をみますと、年少人口(14歳以下)と生産年齢人口(15~64歳)の割合は減少傾向にありますが、老年人口(65歳以上)の割合は増加傾向にあります。

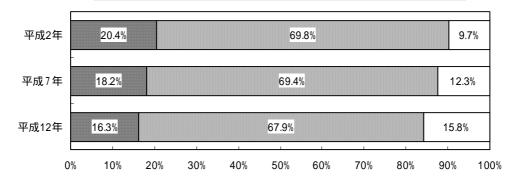
年齢(3区分)別・性別人口

年齢区分	単位	総数	男	女
年少人口	実数(人)	39,440	20,192	19,248
(0~14 歳)	構成比(%)	16.3	17.3	15.4
生産年齢人口	実数(人)	164,148	81,006	83,142
(15~64 歳)	構成比(%)	67.9	69.3	66.5
老年人口	実数(人)	38,167	15,614	22,553
(65 歳以上)	構成比(%)	15.8	13.4	18.0
年龄不詳	実数(人)	165	105	60
	構成比(%)	0.1	0.1	0.1
総 数	実数(人)	241,920	116,917	125,003
	構成比(%)	100.0	100.0	100.0

資料:平成12年国勢調査

年齢構成図

■ 年少人口(0~14歳) ■ 生産年齢人口(15~64歳) ロ 老年人口(65歳以上)



資料:国勢調査

(2)地域別人口

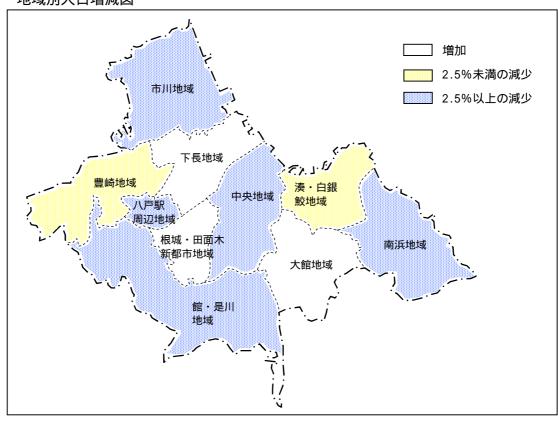
- ・住民基本台帳をもとに平成8年と平成13年の地域別の人口を比較しますと、市全体としては0.4%の減少ですが、根城・田面木・新都市地域や大館地域、下長地域では増加しています。
- ・世帯数をみますと市全体では増加しており、おおむね全ての地域でも増加していますが、市川地域のみ減少しています。
- ・市全体の人口密度は 11.4 人/ha ですが、中央地域や湊・白銀・鮫地域では 37.7 人/ha、33.3 人/ha と市全体の人口密度の 3 倍程度の値を示しています。

地域別人口・世帯数・人口密度

	総面積		人口(人)		t	5)	人口密度	
	(h a)	平成8年	平成13年	増減率	平成8年	平成13年	増減率	(人/ha)
市川地域	2,860.2	14,260	13,577	-4.8%	5,526	5,374	-2.8%	4.7
下長地域	1,714.8	28,886	29,427	1.9%	10,019	11,008	9.9%	17.2
八戸駅周辺地域	442.4	8,295	7,948	-4.2%	2,841	2,990	5.2%	18.0
中央地域	1,907.9	74,918	71,977	-3.9%	29,181	29,849	2.3%	37.7
根城·田面木·新都市地域	1,137.9	21,986	24,199	10.1%	8,193	9,397	14.7%	21.3
湊·白銀·鮫地域	1,605.6	53,772	53,412	-0.7%	18,469	19,633	6.3%	33.3
豊崎地域	2,256.3	4,656	4,574	-1.8%	1,329	1,437	8.1%	2.0
館·是川地域	4,722.7	10,901	10,391	-4.7%	3,477	3,674	5.7%	2.2
大館地域	2,156.5	24,030	25,302	5.3%	8,671	9,701	11.9%	11.7
南浜地域	2,599.6	4,372	4,195	-4.0%	1,343	1,423	6.0%	1.6
合計	21,404.0	246,076	245,002	-0.4%	89,049	94,486	6.1%	11.4

資料:住民基本台帳

地域別人口増減図



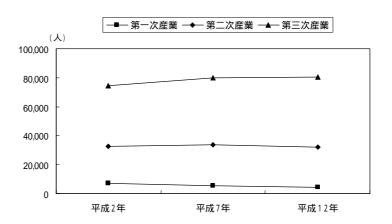
資料:住民基本台帳

(3)産業

- ・国勢調査によると、平成 12 年の産業大分類別就業者数は下表のとおりであり、第 三次産業就業者が 80,334 人と全体の 68.5%を占めており、第一次産業就業者は 4,305 人で 3.7%となっています。
- ・平成2年からの就業者数の推移をみますと、第一次産業は減少傾向にあります。
- ・第一次産業就業者の内訳をみますと、農業・漁業就業者は減少傾向にあります。林 業就業者は僅かですが増加しています。

産業大分類別就業者数

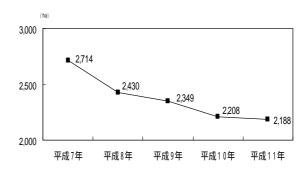
	平成2年	平成7年	平成	12年		
	就業者数	就業者数	就業者数	構成比		
	(人)	(人)	(人)	(%)		
第一次産業	7,042	5,351	4,305	3.7%		
第二次産業	32,463	33,781	32,120	27.4%		
第三次産業	74,722	79,804	80,334	68.5%		
分類不能の産業	103	109	556	0.5%		
総数	114,330	119,045	117,315	100.0%		



資料:国勢調査

第一次産業就業者数と農作物作付面積の推移

	平成2年 就業者数	平成7年 就業者数	平成12 就業者数
	(人)	(人)	(人)
農業	4,207	3,517	2,791
林業	17	14	25
漁業	2,818	1,820	1,489

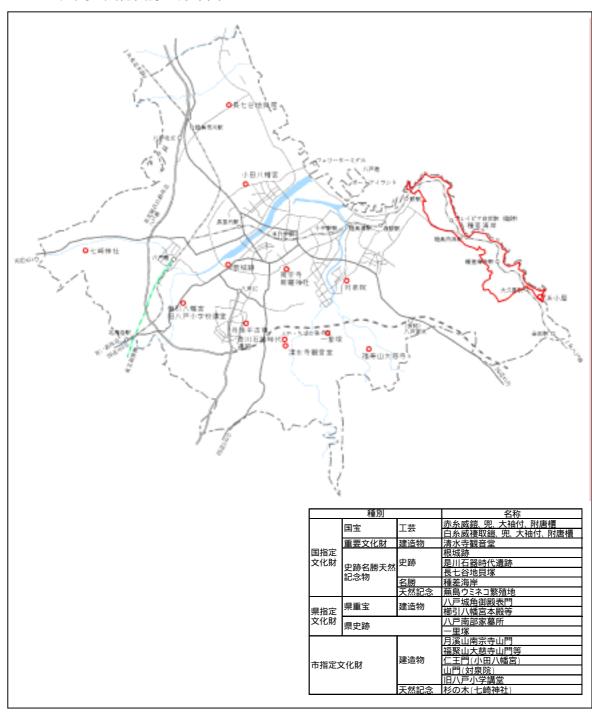


資料:国勢調査、農業センサス

(4)歴史・文化財等

- ・市内には国指定の文化財である清水寺観音堂、根城跡や是川石器時代遺跡、種差海 岸を始めとして、多くの文化財が指定されています。
- ・史跡のうち根城跡については、「史跡根城の広場」として開放されており、是川石器 時代遺跡については、「縄文の里整備計画」の策定を予定しています。
- ・その他市内には、埋蔵文化財が多くみられ現在も発掘調査が進められています。

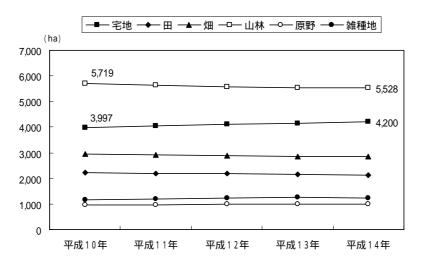
主な歴史・文化資源の分布図



(5)土地利用

- ・固定資産概要調書により市内の土地利用状況をみますと、市域面積のうち山林が占める割合が最も多く25.8%で、次いで宅地の19.6%となっています。宅地は過去5年間一貫して増加しており、田、畑、山林はいずれも減少を続けています。
- ・平成 12 年度の都市計画基礎調査によると、市街化区域のうち自然的土地利用は 16.8%あり、このうち畑が 6.8%と最も多く、田と合わせた農地は 8.6%となって います。市街化調整区域では自然的土地利用が 84.5%を占め山林が 40.5%を占め 田と畑を合わせた農地は 29.5%となっています。

土地利用面積



資料:固定資産概要調書(各年1月1日現在)

土地利用現況

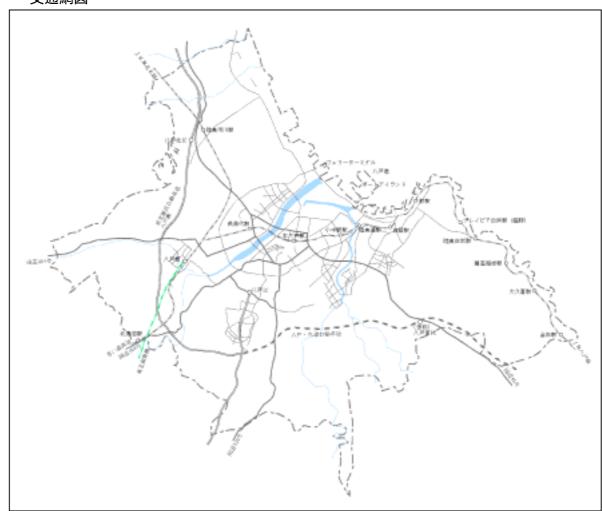
		市街化[区域	市街化調	整区域	都市計画	1区域
		面積(ha)	割合	面積(ha)	割合	面積(ha)	割合
自然的	田	105.9	1.8%	2,044.9	13.1%	2,150.8	10.1%
土地利用	畑	389.4	6.8%	2,569.1	16.4%	2,958.5	13.8%
	山林	223.2	3.9%	6,341.4	40.5%	6,564.6	30.7%
	水面河川湖沼等	11.2	0.2%	260.5	1.7%	271.7	1.3%
	その他の自然地	232.6	4.1%	2,007.8	12.8%	2,240.4	10.5%
	小 計	962.3	16.8%	13,223.7	84.5%	14,186.0	66.3%
都市的	住宅用地	1,888.10	32.9%	939.8	6.0%	2,827.9	13.2%
土地利用	商業用地	437.9	7.6%	82.6	0.5%	520.5	2.4%
	工業用地	761.3	13.3%	183.0	1.2%	944.3	4.4%
	公共公益施設用地	281.6	4.9%	170.2	1.1%	451.8	2.1%
	神社仏閣	18.2	0.3%	14.9	0.1%	33.1	0.2%
	未利用宅地	350.7	6.1%	352.0	2.2%	702.7	3.3%
	道路用地	793.3	13.8%	533.4	3.4%	1,326.7	6.2%
	道路以外の交通用地	95.6	1.7%	53.8	0.3%	149.4	0.7%
	公園緑地	142.4	2.5%	96.6	0.6%	239.0	1.1%
	小 計	4,769.10	83.2%	2,426.3	15.5%	7,195.4	33.7%
	合 計	5,731.40	100.0%	15,650.0	100.0%	21,381.4	100.0%

資料:都市計画基礎調查(平成 12 年度)

(6)交通網

- ・本市の道路体系は、市の中心部から放射状に伸びる道路と、市街地を取り囲む環状 の道路を骨格とする放射環状道路により形成されています。また、広域連携を支え る道路としては、国道 45 号、104 号、340 号、454 号、東北縦貫自動車道八戸 線、現在整備が進められている八戸・久慈自動車道があります。
- ・平成 14 年 12 月の東北新幹線八戸駅開業により、本市には、北東北の交通拠点としての役割が期待されています。
- ・鉄道在来線は JR 東北本線と JR 八戸線、青い森鉄道が整備されており、JR 八戸線 の本八戸駅は、市庁舎等の主要機能が集積している中心市街地に最も近い駅となっ ています。
- ・八戸港は、工業港、漁港など様々な機能を備えた北日本有数の大規模港湾で、昭和 39 年の新産業都市指定以来港湾整備が進められ、国際物流拠点港としての役割を 果たしています。

交通網図

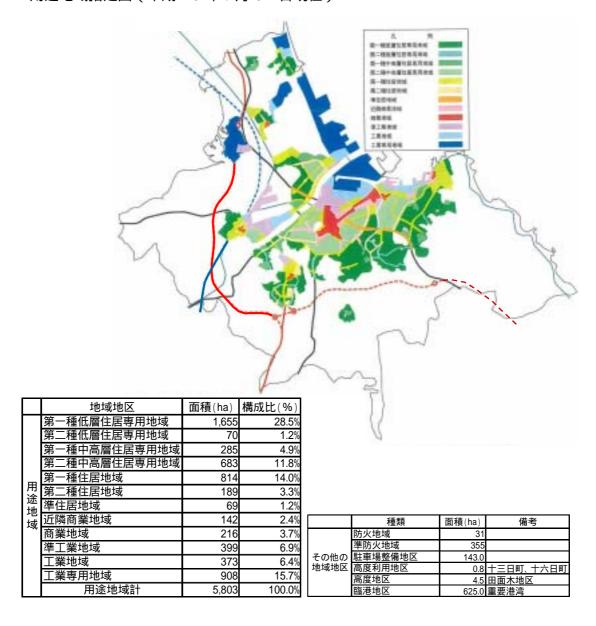


(7)都市計画

法規制状況

- ・本市の都市計画区域は 21,404ha であり、市街化区域は 5,747ha で、市街化調整区域は 15,657ha となっています。
- ・用途地域の指定面積は 5,803ha であり、用途地域内に市街化調整区域が 56ha あります。
- ・市庁舎等の都市機能が集積する中心市街地、八戸駅や陸奥湊駅等の主要駅周辺が商業系の用途に指定されており、その周辺に住宅系の用途が指定されています。工業系の用途は、北部の海岸部分と内陸の工業団地等が指定されています。

用途地域指定図(平成 15 年 3 月 31 日現在)



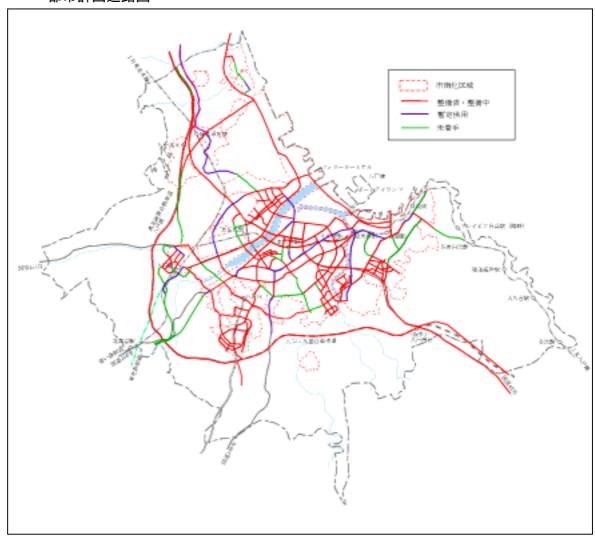
都市計画道路

・都市計画道路として 90 路線、255.8km が計画されており、平成 15 年 3月 31 日現在約 133.4km が整備済となっています(整備率 52.1%)。区画街路や特殊街路は概ね整備済となっていますが、幹線道路の整備は約6割程度の進捗となっています。

都市計画道路の整備状況(平成15年3月31日現在)

	+1 = 27 E				
	計画延長(m)	完成延長 (m)	整備率	暫定供用延長 (m)	供用率
自動車専用道路	29,340	0	0.0%	4,551	15.5%
幹線道路	205,130	113,410	55.3%	19,820	9.7%
区画街路	6,400	6,354	99.3%	0	0.0%
特殊道路	14,930	13,620	91.2%	0	0.0%
合計	255,800	133,384	52.1%	24,371	9.5%

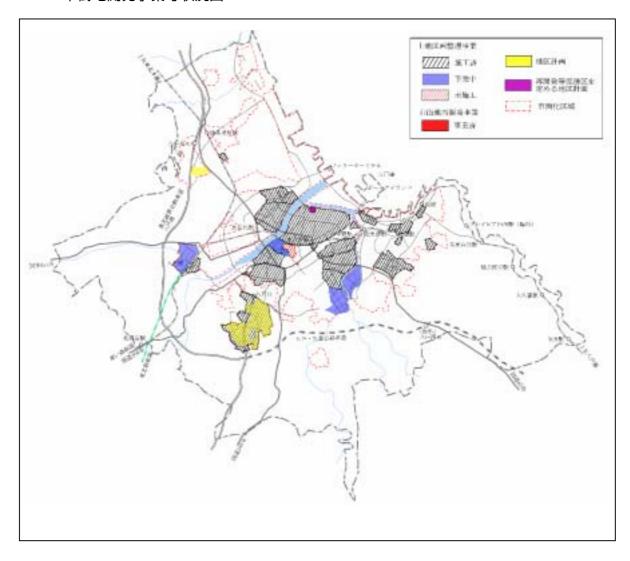
都市計画道路図



市街地開発事業等

- ・土地区画整理事業としては、20地区(1,714ha)が施工済となっています。現在 事業中の地区は、八戸駅西地区と田向地区等の4地区で、事業未施工の地区は、売 市第三地区の1地区です。
- ・市街地再開発事業は、十三日町・十六日町地区(約0.8ha)で実施されています。
- ・地区計画は、八戸ハイテクパーク(25.4ha)と八戸新都市地区(228.0ha)の2 地区で定めています。
- ・「再開発等促進区を定める地区計画」を定めているのは、沿館地区(13.1ha)です。

市街地開発事業等状況図



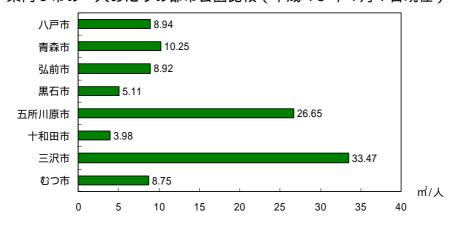
都市公園

- ・市内には 254 か所、384.33ha の都市公園の整備が予定されていますが、その内開設済は 152 か所、218.91ha で、面積による整備率をみますと 57.0%となっています。
- ・都市計画決定された都市公園(都市計画公園)は、142 か所、370.20ha あり、 その内開設済は 122 か所、211.88ha で、面積による整備率をみますと 57.2% となっています。
- ・平成 15 年4月1日現在、都市公園の市民一人あたりの面積は 8.94 ㎡/人となって おり、これは都市公園法施行令に示されている基準 10 ㎡/人を若干下回っています。
- ・また、県内8市の平成15年4月1日現在の市民一人あたりの都市公園面積を比較すると、本市は青森市に次ぐ4番目の面積となっています。
- ・一人あたりの公園面積を地域別にみますと、八戸駅周辺地域や大館地域等は市全体 の値を上回っていますが、中央地域等の6地域で下回っています。特に豊崎地域や 南浜地域においては、都市公園が整備されていません。

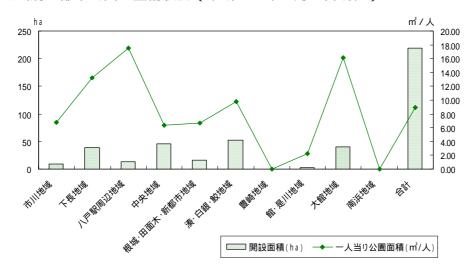
都市公園の種類別の整備状況(平成15年4月1日現在)

			合計													
				口司				都i	市計画					未決定		
		箇所	面積		開設済	2	箇所	面積		開設済	ī Ī	箇所	面積		開設	斉
		数	曲相 (ha)	箇所 数	面積 (ha)	整備率	数	曲相 (ha)	箇所 数	面積 (ha)	整備率	数	面傾 (ha)	箇所 数	面積 (ha)	整備率
住区基幹	街区公園	200	36.37	105	28.89	79.4%	105	31.58	88	26.33	83.4%	95	4.79	17	2.56	53.4%
公園	近隣公園	18	28.80	15	20.13	69.9%	17	27.10	15	20.13	74.3%	1	1.70	0	0	0.0%
	地区公園	2	19.70	1	1.80	9.1%	1	16.70	1	1.80	10.8%	1	3.00	0	0	0.0%
小	計	220	84.87	121	50.82	59.9%	123	75.38	104	48.26	64.0%	97	9.49	17	2.56	27.0%
都市基幹	総合公園	3	71.60	3	57.50	80.3%	3	71.60	3	57.50	80.3%	•	•	•	•	-
公園	運動公園	2	35.10	2	35.10	100.0%	2	35.10	2	35.10	100.0%	•	1	•	•	-
小	計	5	106.70	5	92.60	86.8%	5	106.70	5	92.60	86.8%	0	0.00	0	0	-
特殊公園	風致公園	-	-	-	-	-	-	-	•	-	-	•	1	•	•	-
	墓地公園	1	25.80	1	25.80	100.0%	1	25.80	1	25.80	100.0%	•		•	•	-
	森林公園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	•	•	•	•	-
大規模	莫公園	-	-		-	-		-		-	-	-	-	•		-
都市	緑地	28	166.96	25	49.69	29.8%	13	162.32	12	45.22	27.9%	15	4.64	13	4.47	96.3%
緑	道	-	-	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	-	-
合計	†	254	384.33	152	218.91	57.0%	142	370.20	122	211.88	57.2%	112	14.13	30	7.03	49.8%

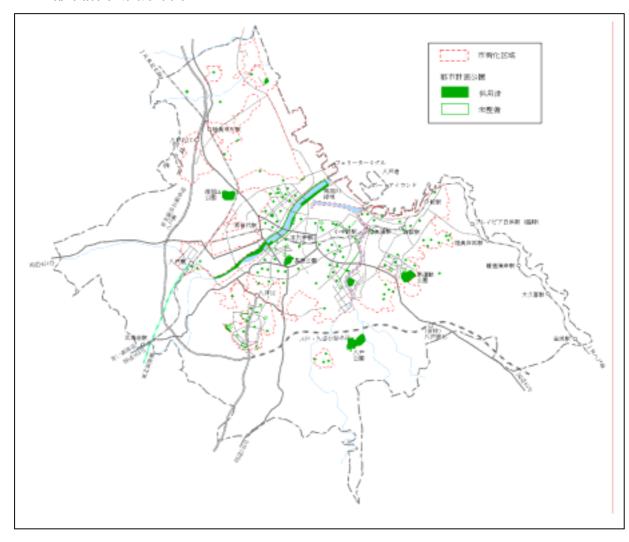
県内8市の一人あたりの都市公園比較(平成15年4月1日現在)



地域別の都市公園の整備状況(平成15年4月1日現在)



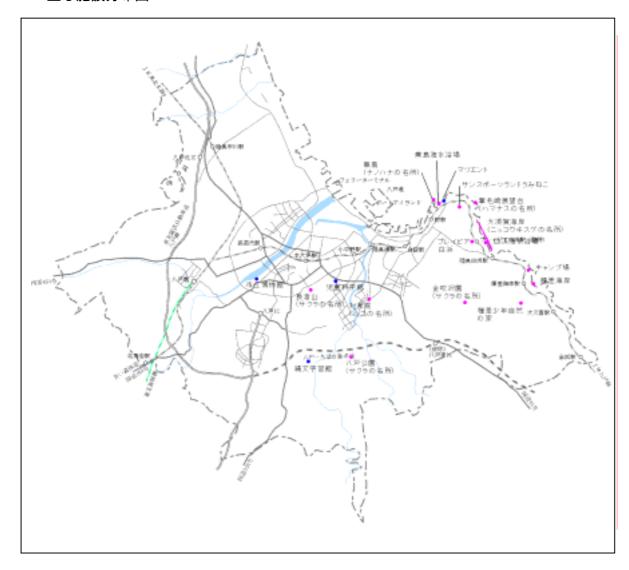
都市計画公園分布図



(8)公共公益施設

- ・教育施設としては、小学校 44 校、中学校 22 校、高等学校 17 校、大学(高専、短大含む)4 校があります。その他、少年の健全な育成を図る社会教育施設として、 種差少年自然の家があります。
- ・文化施設としては、八戸市博物館や八戸市水産科学館マリエント、児童科学館、八戸市美術館、八戸市縄文学習館等があります。
- ・レクリエーション施設としては、サン・スポーツランドうみねこや種差海岸キャンプ場、プレイピア白浜(民間)等があります。

主な施設分布図



(9)景観

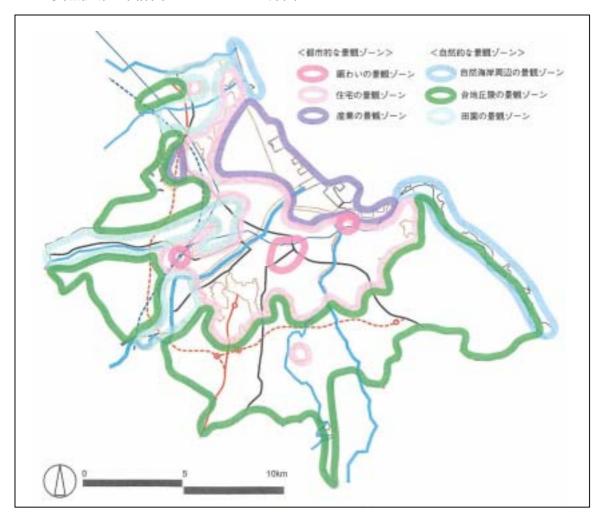
- ・本市を代表する景観の骨格は、市域南部の階上岳等の低い山並み、馬淵川や新井田川の河川、三陸リアス式海岸の北端に位置する蕪島や種差海岸等の海岸によって形成されています。
- ・八戸港・蕪島のウミネコは「残したい"日本の音風景 100 選"」に指定されています。 また、大須賀海岸は「日本の渚・百選」に選定されており、種差海岸は「日本の白 砂青松 100 選」「新日本観光地百選」に選定されています。
- ・昭和 62 年より景観に対する市民の関心を高め、魅力あるまちづくりを進めるために、「八戸市まちの景観賞」を制定し、模範となる景観形成の事例を表彰しています。
- ・本市では、景観づくりの基本的指針となる「景観形成基本計画」を平成 15 年度に 策定します。

本市の景観特性

ゾーン名	景観特性
賑わいの 景観ゾ-ン	・個性的な各通りにより構成されている中心市街地 ・シンボリックな駅舎を中心とした八戸駅周辺 ・歴史ある港町の陸奥湊駅周辺 ・空き店舗や空地の点在する中心市街地 ・市の玄関口として寂しい八戸駅周辺 ・狭隘で空き店舗や空地の点在する陸奥湊駅周辺
住宅の 景観ゾ-ン	・土地区画整理事業により計画的に整備された住宅地 ・緩やかな起伏のあるゆったりとした眺めの良い住宅地 ・生活環境の向上とともに景観形成が必要な一部の住宅地 ・道路等の安全性やうるおいが充分ではない一部の住宅地
産業の 景観ゾ-ン	・全国屈指の規模を誇る漁港 ・県内随一の集積を誇る港湾と工業地帯 ・計画的に整備され緑に包まれた工業団地 ・緑化や色彩等の配慮のない港湾と工業地帯
自然海岸 周辺の 景観ゾ-ン	・貴重な自然が残り、海岸線まである緑地帯や葦毛崎等の良好な眺望点が存在する種差海岸 ・屋外広告物やガードレール等の景観への配慮が不足する自然海岸周辺 ・消波ブロック等の仮置き等の景観を阻害している自然海岸周辺
台地丘陵の 景観ゾ-ン	・階上岳や名久井岳に向けての雄大な緑地 ・緩やかな起伏がある緑地と畑地等により構成される台地 ・雄大な緑地や畑地に囲まれた集落 ・台地丘陵の斜面地を形作る豊かな斜面樹林
田園の 景観ゾ-ン	・河岸段丘に挟まれた谷底平野の水田 ・河川や水路によるうるおいのある水辺空間 ・豊かな田園空間に囲まれた集落 ・耕作放棄地が一部にみられる水田

資料:景観形成基本計画

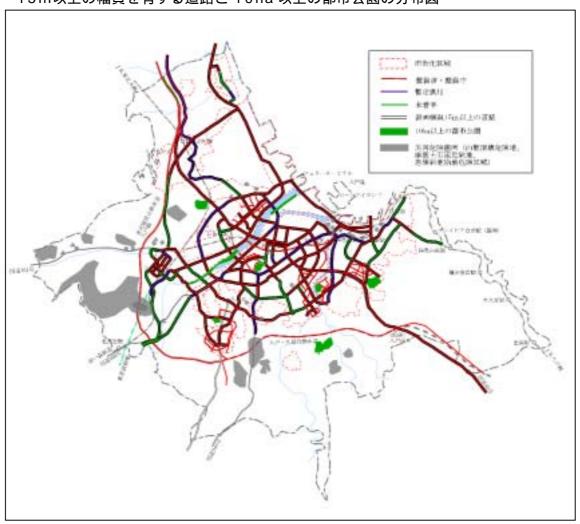
景観形成基本計画によるゾーン区分図



(10)防災

- ・市街地大火から避難者の生命を保護する場所として 10ha 以上のオープンスペース が必要ですが、市内の都市公園で 10ha 以上のものは、長根公園や新井田公園等 8 ヶ所あります。
- ・延焼遮断帯や避難路の機能を有する幅員 15m以上の道路については、部分的に暫 定供用や未整備になっており、防災的な機能を十分に発揮できない状況にあります。
- ・八戸市地域防災計画には避難地等として小学校 43 校、市立中学校 22 校、市立公 民館・体育館等 31 か所、公園等 125 か所を指定しています。公園等の内、防火 水槽を備えているのは、長根公園や小中野緑地等 22 か所です。
- ・湊地域や豊崎地域等には、急傾斜地崩壊危険区域に指定されているところがあり、 また、市域南部の山林が部分的に、土石流危険箇所に指定されている等、防災上危 険な斜面地が多く見られます。

15m以上の幅員を有する道路と 10ha 以上の都市公園の分布図

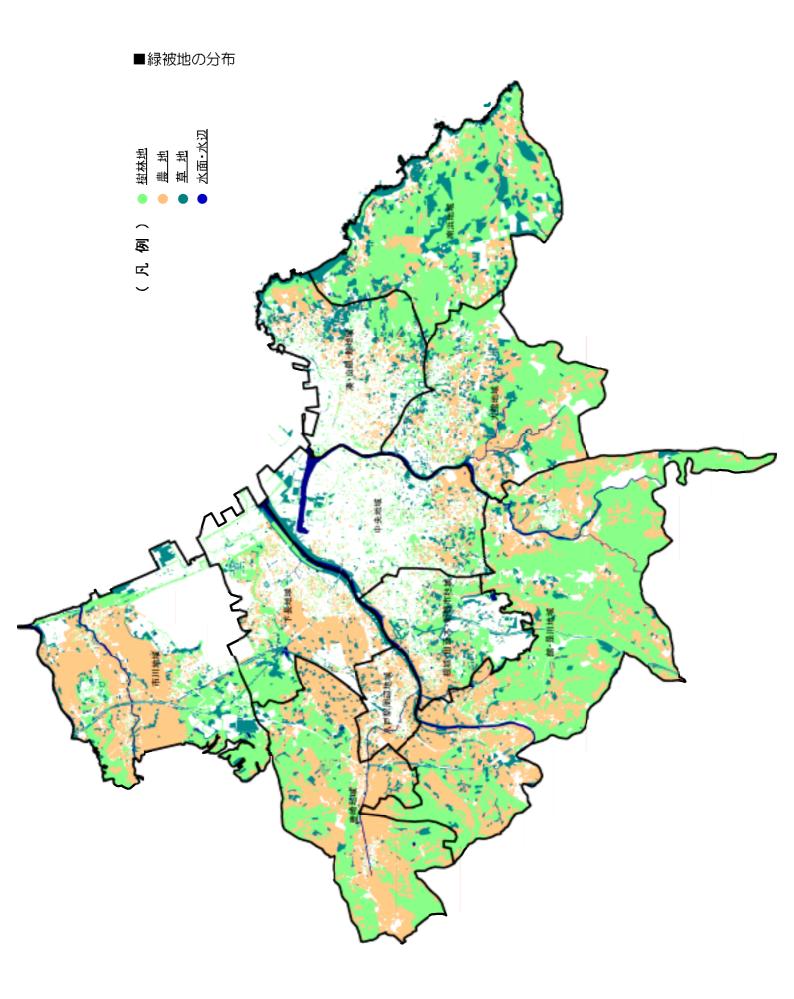




- ・市域全体における 150 ㎡以上のまとまった緑に覆われた土地(緑被地)の面積は、約 14,029ha で、市域面積に占める割合(緑被率)は 65.5%です。また同様に、市街化区域内に占める緑被地面積の割合は、23.7%となっています。
- ・市域全体における緑の種類では、樹林地が最も多く約 6,896.5 ha で、市域面積に 占める割合は 32.2%となっています。一方、市街化区域内においては、農地が 512.4 ha と最も多く、割合は 8.9%となっています。
- ・地域別にみると、豊崎地域が最も高く緑被率 90.3%で、最も低いのは中央地域の 27.3%となっています。

地域別緑被面積

地場別綵物	XII 12			緑被面	穑(ha)			
		樹林地	農地	草地	水面·水 辺	合計	緑被率	総 面積 (ha)
市川地域		499.8	840.9	217.3	26.2	1,584.2	55.5%	2,852.4
	市街化区域	116.7	56.1	103.3	2.0	278.1	48.7%	571.′
下長地域		278.4	351.2	115.8	32.9	778.3	44.9%	1,731.8
	市街化区域	68.9	79.4	18.8	1.0	168.1	19.0%	886.0
八戸駅周辺		8.5	166.8	38.4	5.8	219.7	49.0%	448.
地域	市街化区域	7.3	66.4	11.0	2.3	87.1	31.5%	276.
中央地域		157.8	157.5	138.9	80.6	534.7	27.3%	1,955.
	市街化区域	103.1	125.1	85.3	2.7	316.2	18.5%	1,708.
根城·田面木		210.5	148.5	116.3	28.5	503.8	43.6%	1,156.
·新都市地域	市街化区域	86.8	41.8	62.1	3.4	194.2	25.0%	776.
湊·白銀		241.4	219.7	175.9	6.9	644.0	39.5%	1,630.
·鮫地域	市街化区域	63.6	87.0	44.1	0.4	195.0	18.6%	1,046.
豊崎地域		924.2	993.1	92.0	7.6	2,016.9	90.3%	2,232.
	市街化区域	0.6	0.0	1.3	0.0	1.8	16.5%	11.
館·是川地域	;	2,390.6	1,410.9	208.4	47.1	4,057.0	86.8%	4,675.
	市街化区域	6.9	7.4	2.4	0.0	16.8	24.3%	69.
大館地域		799.1	462.0	171.9	25.6	1,458.5	67.9%	2,149.
	市街化区域	34.9	49.1	21.3	0.3	105.6	26.3%	401.
南浜地域		1,386.2	380.9	461.6	3.4	2,232.1	86.8%	2,571.
	市街化区域	-	-	-	-	-	-	
合	計	6,896.5	5,131.5	1,736.6	264.6	14,029.2	65.5%	21,404.0
	市街化区域	488.8	512.4	349.7	12.0	1,362.8	23.7%	5,747.
割		32.2%	24.0%	8.1%	1.2%	65.5%		
	市街化区域	8.5%	8.9%	6.1%	0.2%	23.7%		



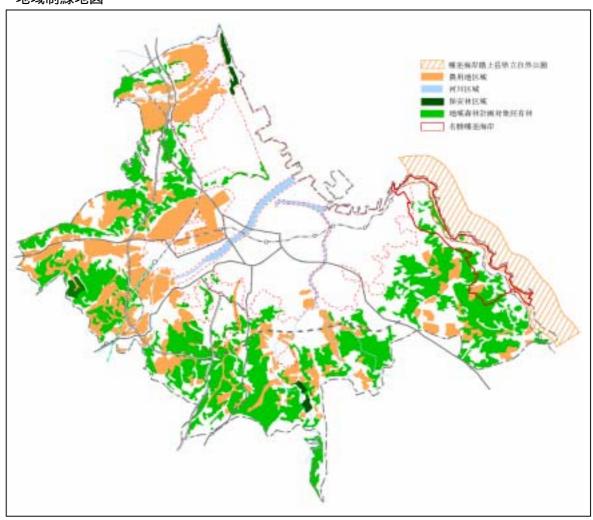


- ・市街地の周囲を取り囲むように広がる山林や農地は、地域森林計画対象民有林や 農用地区域に指定されています。
- ・保安林については、市域南部の山林の一部が土砂流出防備保安林に指定されており、その他市域北部の海岸付近の松林が飛砂防備保安林に指定されています。
- ・市域東部の海岸部は、種差海岸階上岳県 立自然公園に指定されています(八戸市 域分231ha)。

地域制緑地面積

名 称	面積(ha)
県立自然公園	231.0
農用地区域	3,771.0
河川区域	162.8
保安林区域	124.0
地域森林計画対象民有林	5,343.0
名勝・天然記念物・史跡等、緑地として取り扱える文化財	919.5
合計	10,551.3

地域制緑地図





(1)緑化活動

- ・本市の緑化に関する活動としては、「八戸市を緑にする会」等の緑化協力団体と連携 しながら下表のような取り組みを実施しています。また、平成 13 年度現在 726 名の市民によって構成される緑化協力員とともに、「花いっぱい運動」等の緑化活動 を展開しています。
- ・公園や街路樹等の維持管理を一部地域住民とともに実施しており、小中規模の公園については、草刈や清掃等を町内会等の地元団体に委託しています(182公園)。
- ・八戸公園内に設置されている「緑の相談所」は、市民の緑に関する相談を受け付け る等の緑化活動を支える施設ですが、市街地から離れていることもあり利用者数は 伸び悩んでいます。
- ・八戸ニュータウンにおいては緑地協定を締結し、緑豊かな潤いのある環境の形成を図っています。また、八戸ハイテクパーク内の全企業は、「八戸ハイテクパークグリーン協定」を締結し、良好な環境形成を目指し敷地内の緑化に取り組んでいます。

緑化に関する活動(平成14年度実績)

緑化事業名	内容等						
緑化運動推進モデル	緑化事業に特に功績のあった団体(学校・事業所・町内等)を指定し、他の模範						
団体指定	として生活環境の美化と向上を図る。						
緑化推進地域指定	緑化推進の啓蒙普及を図るため、町内単位で地域を指定し、希望する球根、						
常 101年产业均1日在	種子を提供し、市民参加による緑化推進運動を展開する。						
花いっぱい運動	市が委嘱している緑化協力員の協力のもとに、各町内のフラワーポット及び花						
でいっぱい注動	壇に春夏を通じ草花苗を植栽し、生活環境の美化と向上に努める。						
 緑の相談所	都市緑化の推進を図るため、植栽知識の普及及び一般管理方法、技術指導						
高級の自由政府	に重点を置き、緑の相談、園芸教室、こども園芸教室を開催する。						
 誕生記念樹	新生児誕生を記念し、市民の木「イチイ」を進呈し、市民の緑化に対する意識						
成一年 10703123	の高揚を図る。						
公共施設への緑化木	市内の小中学校、町内(公園等)を対象に希望樹種を贈呈し植樹祭を実施、緑						
贈呈	化思想の高揚に努める。S57 年度から 21 年間、4,556 本。						
 八戸市都市緑化基金	民有地の緑化の助成(生垣設置への助成を行う「八戸市生垣設置奨励補助						
/ / / ID 目 ID ID IN A I D 全立立	金交付」)、市民の木「イチイ」・花「菊」の育成普及など。						
	市民の緑に対する意識の高揚と市の緑化事業の発展に寄与することを目的						
八戸市緑化まつり	とする。						
	・園芸講習会、園芸教室、生垣の見本展示						
	市民の花「菊」を普及させることにより調和のとれた良好な生活環境の保全と						
はちのへ菊まつり	自然への憧憬を深めることを目的に開催。						
はらの、物をうり	一・奥州菊展、菊人形展、菊盆栽展示及び菊づくりの指導を通じ市の花「菊」の育成						
	普及を図る。						
緑化パレ-ド	市民の緑化に対する意識の高揚と普及啓発を図るため、「市民と花のカーニ						
MATU/ VP T] バル」に参加し、風船の配布を行う。						

(2)街路樹

- ・道路延長に対する植栽されている道路延長の割合(緑化率)をみると、市道は国道 と県道の緑化率を下回っています。
- ・また、市内の街路樹の樹種別の構成比を見ると、国道ではプラタナスが最も多く、 市道ではイチョウが最も多く植えられています。
- ・街路樹の多くは歩道部分に植えられていますが、成長の早い樹種が多く、上部の電 線にかかる前に頻繁に剪定されるため、樹勢や樹形が不良な樹木が見られます。

八戸市内の街路樹の樹種と街路樹の緑化率

	重	道	県 道		市	道	計		
	本数	構成比%	本数	構成比%	本数	構成比%	本数	構成比%	
プラタナス	454	76	30	7	868	10	1,352	14	
ハナミズキ	38	6	5	1	48	1	91	1	
イチョウ	27	5	149	35	1,429	16	1,605	16	
ケヤキ	18	3	0	0	760	0	778	8	
エゴノキ	20	3	0	0	0	0	20	0	
モミジ	12	2	0	0	0	0	12	0	
オオヤマザクラ	12	2	0	0	0	0	12	0	
ナナカマド	15	3	241	57	1,221	14	1,477	15	
シダレヤナキ	0	0	0	0	1,086	0	1,086	11	
ユリノキ	0	0	0	0	862	0	862	9	
サクラ	0	0	0	0	1,038	0	1,038	11	
トウカエデ	0	0	0	0	545	0	545	6	
サルスベリ	0	0	0	0	333	0	333	3	
ヒバ	0	0	. 0	0	183	0	183	2	
トドマツ	0	0	0	0	158	0	158	2	
アカシア	0	0	0	0	121	0	121	1	
コブシ	0	0	0	0	92	0	92	1	
ウメ	0	0	0	0	19	0	19	0	
マツ	0	0	0	0	2	0	2	0	
計	596	100	425	100	8,765	100	9,786	10	
イチイ	1.426		326		807		2.559		

イチイは中央分離帯などに密植しているため低木として扱う。

	道路延長 (m)	緑化延長 (m)	緑化率
国道	50,640	6,200	12.2%
県道	108,762	21,470	19.7%
市道	1,015,569	67,875	6.7%
合計	1,174,971	95,545	8.1%

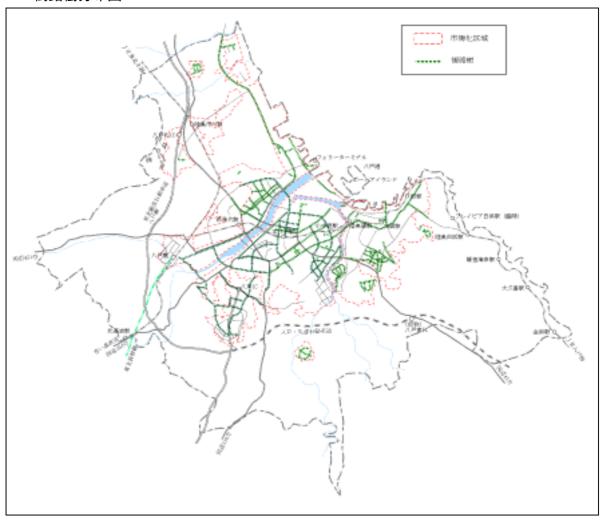
資料:公園緑地課資料

地方別街路樹上位種

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		*			*		*	*	*	
11.35-39	ニセ	ナナ	プラタ	イチョウ	カエデ類	シダレ	ネグンド	シラカバ	ヤチダモ	カロリナ
北海道	アカシア	カマド	ナス			ヤナギ	カエデ			ポプラ
	39 410	34 054	27 850	18 370	13 432	11 336	7 987	7 756	6 204	2 251
						*	*			*
II.	イチョウ	カイツカ	プラタ	トウ	ケヤキ	ナナ	ユリノキ	ソメイ	シダレ	カエデ類
東北		イプキ	ナス	カエデ		カマド		ヨシノ	ヤナギ	
	16 803	10 686	9 367	8 960	8 456	4 581	4 529	4 208	4 088	3 084

資料:都市緑化計画論(平成6年)

街路樹分布図



(3)公共公益施設

- ・市街化区域内における公共公益施設の種類の平均緑被率は、小学校約 23.5%、中学校約 17.0%、保育所約 9.5%、公民館約 25.3%となっています。中でも排水・廃棄物関連施設は 68.2%と最も高く、その一方で、漁業関連施設は 3.5%と最も低い割合を示しています。
- ・小中学校について、緑被率と敷地面積との関係をみると、敷地面積と緑被率との間に比例関係はなく、敷地面積が比較的狭いところでも、小中学校の平均緑被率20.9%を上回っているところがあります。
- ・学校ビオトープ等の学校の緑化に取り組んでいる八戸小学校は、小中学校の中で最も高い緑被率となっています(約54.0%)

市街化区域内の主な公共公益施設の平均緑被率

施設名	平均緑地面積(m)	平均敷地面積(m)	平均緑被率(%)
小学校	4,305.8	18,316.2	23.5
中学校	4,175.1	24,535.9	17.0
保育所	181.3	1,901.6	9.5
排水·廃棄物関連施設	16,897.8	24,773.3	68.2
漁業関連施設	325.8	9,365.3	3.5
公民館	690.0	2,718.0	25.4
運動施設	53,891.5	116,575.0	46.2
その他公共公益施設	1,800.7	7,943.4	22.7

小中学校ごとの緑被率と敷地面積の相関図

